

自治大卒業生の声

自治大学校卒業生（第1部課程第144期）

静岡県浜松市 財務部財政課 有川 達朗

編集者注：本稿は、自治大学校における研修の特長などについて、自治大学校の卒業生が記したものです。

1 派遣の決定

その日は突然に訪れ、1月のある日、所属する自治体の人事部局から、次年度の5月上旬から9月中旬までの4か月半の期間、自治大学校第1部課程に派遣の旨提案がありました。40代となり、日常の業務に追われつつ、良くも悪くも業務に慣れ始めていたこの時に、所属自治体の業務を離れ、地方自治について深く学ぶ機会を得られたことを振り返ってみれば、この日は私にとって転機となる大変重要な1日となりました。

2 入校まで

派遣が決定した後は、自治大学校からの各種案内から同期が32人である事や寮の部屋位置といった情報が分かる度に、研修生として派遣される実感を得ることができ、予め示された法制課目や演習課目の事前課題に少しずつ取組みました。この事前課題は、法制課目の基礎知識を学んだり、入校後の演習課目に対応した基礎知識を導入したりといった、言わば研修に向けた準備運動ですが、研修直前の時期は、通常業務の引き継ぎと入寮に向けた荷物の準備と並行することもあり、息切れしそうな状況にあったことを覚えています。

3 研修の内容

研修の初日に全420コマに亘るシラバスや講義日程が示され、勉強をし

に来たのだと再認識することとなりました。シラバスは、法制課目や地方公共団体を巡る最新の政策課題といった講義が271コマ、政策立案演習や事例演習といった演習等が149コマであり、いずれの講義も各分野の第一線で活躍される研究者や実務家の方が講師であり、自治大学校だからこそ可能で贅沢な研修内容となっています。

(1) 講義について

研修期間の序盤では、基本法制として、憲法、民法、行政法、地方自治制度、地方公務員制度、地方税財政制度の6課目を学習します。演習を織り交ぜながら、条文の読み方や判例、実務上の注意点について学ぶことができ、特に判例解説では当該判決に至るまでの経緯や背景、対抗する見解も含めて丁寧に教えていただくことで、制度理解に留まることなく理解を進めることができました。研修期間中盤には、効果測定として所謂試験があり、自身の理解度を試す機会としてそれぞれが試験勉強を経て臨みます。私は、学生時代以来の試験勉強ということもあり、自身の記憶力や筆記能力の衰えに愕然としましたが、この気づきも含めて大変良い勉強となりました。

また、基本法制のほかに総合教養課目や、公共政策、行政経営などの課目があり、講義の進捗に合わせ関連する講義が順を追って組まれていることについて、広範な行政の課題を体系的かつ紐づけて理解しやすいカリキュラムになっていると感心しました。

(2) 演習等について

演習課目では、講師養成課目・事例演習・条例立案演習・ディベート型演習・政策立案演習という5つの演習があり、事前課題として準備した内容も利用しながらそれぞれの演習に臨みます。

演習毎にチーム編成が異なるため、演習の都度、チームの指揮役や資料作成、発表者等の役割分担を行いますが、どの研修生も調整能力が高く、誰がどの役割を担ってもチームを機能させながら演習がスムーズに進められており、前向きな対応やスピード感など、演習の内容もさることながら、他の研修生から学ぶことが多く大変良い刺激となりました。

研修期間の中盤で実施された講師養成課目では、プレゼンテーションの技術を学びました。説明者として必要な技術や所作を学び実践する中で、講師から個人毎に具体的なアドバイスが示されます。私の場合は「一度に伝えようとする内容が多すぎる」という指摘があり、他の研修生からのアドバイスも踏まえながら、相手に伝えるための話し方や説明内容の組み立てを変化させていく作業が大変良い経験となりました。

第1部課程における演習課目は、政策立案演習による成果を研修の集大成として発表することもあり、演習時間の大半が政策立案演習に割かれています。

政策立案演習では、班毎に内部教官及び外部教官が指導につき、特定の自治体に実際に提案する前提で具体的かつ現実的な政策を作り上げます。当初は研修の場ということもあり、アイデアベースの理想論を並べた政策立案を想定していましたが、その政策によってどのような効果が得られるか、効果をどのように測定し検証するか、現実的に政策を実施するための人員体制が提案自治体で整えられるのかといった様々な視点から議論を積

み重ねて政策を練り上げていく作業は、大いに勉強となりました。

4 おわりに

自治大学校を卒業後は、自身の業務を深掘りするための図書を通じて学びを継続していますが、まとまった時間はなかなか取れず、自治大学校での研修期間は贅沢な学びであったのだと痛感しています。自治大学校において学んだ知識の多くは徐々にアップデートが必要になりますが、今後も幅広い視野で学び続ける姿勢を持ち続けたいと考えています。

行政の最前線である地方自治体の職員が直面する課題は簡単なものではありませんが、多くの講師から学んだ、分からぬ事を考え続ける粘り強さや物事を正しく理解しようとする姿勢・哲学を取り入れて業務にあたり、自身の態度や研修を通じて、自治大学校での学びを自治体や住民に少しづつ還元してまいりたいと思います。

末筆となりますが、研修期間を通じて自治大学校の皆様や講師、受講生である仲間達等の多くの方々にサポートしていただいたこと、また、約4ヶ月半の間、快く送り出してくれた職場の皆様や家族に対し、この場を借りて改めて感謝を申し上げます。



▲卒業式当日、自治大学校校舎前にて撮影